

学生がフォーラムで研究発表

江戸川大学

「人間としての優しさに満ち、普遍的な教養と時代が求める専門性により社会貢献できる人材の育成（人間陶冶）」を教育理念に掲げ、2学部6学科で教育を展開する江戸川大学（千葉県流山市）。

去る5月11日、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科の井上二郎教授のゼミナールに所属する学生が、日本広告学会（本部東京・新宿区）主催の「クリエイティブ・フォーラム2019」において、研究発表を行った。

今回のテーマは、「広告会社が社外に設立する『クリエイティブ・ブティック』の役割と可能性」。近年、大手広告会社が小規模なクリエイティブ組織（クリエイティブ・ブティック）を社外に設置する動きが加速していることに着目した発表などが行われた。

当日の第1部では、基調講演として株式会社ADKクリエイティブ・ウィン（本社東京・港区）の三寺雅人氏や株式会社博報堂ケトル（本社・同区）の大木秀晃氏らが発表。続いて第2部では基調講演者によるパネルディスカッションが行われ、井上教授がモデレータを務めた。

第3部では、同大の学生がポスターセッションとしてA3用紙9枚以内にとまとめた研究内容を会場に掲示。大学研究者、広告会社の実務家、大学院生に加わり研究の説明を行った。

参加したメディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科4年生の猪原侑子さんは、「ASMRの広告利用による購買意欲の変化と展望」をテーマに発表。人が聴覚や視覚への刺激によって感じる心地良い感覚、あるいは頭がゾワゾワするといった反応を引き出す音声効果を利用した新しい広告表現の手法「ASMR」について考察した。



広告業界関係者らに加わり発表や運営をサポート

多くの来場者を引きつけた猪原侑子さんによる発表



また当日は、井上教授のゼミナールに所属する同学科4年生の重田尚之さんおよび3年生の大竹唯佳さん、小原瑠乃さん、川上真季さん、菅藤咲希さん、藏本芽依さん、桑平杏奈さん、中村望さんが、同フォーラムの受付や開場準備から閉場までの運営をサポートした。

発表に伴い、猪原さんはASMR効果を実感してもらったための音源とヘッドフォンを用意。来場者に実際の効果が伝わりやすくなるように準備した。そうした工夫が功を奏し、猪原さんによるデジタル時代の新しい広告表現についての研究発表は、来場者からの注目を集め、高評価だった。

また当日は、井上教授のゼミナールに所属する同学科4年生の重田尚之さんおよび3年生の大竹唯佳さん、小原瑠乃さん、川上真季さん、菅藤咲希さん、藏本芽依さん、桑平杏奈さん、中村望さんが、同フォーラムの受付や開場準備から閉場までの運営をサポートした。

発表を振り返り、井上教授は「猪原さんは、初めての学会発表で緊張していたようですが、途中からは堂々と発表しており、頼もしく感じました」とコメントし、猪原さんを評価。また、運営をサポートした学生に対し、「学会終了時に、多くの他大学の先生方からお褒めのお言葉をいただき、うれしく思います」と、学生らの活躍を喜んだ。

マス・コミュニケーション学科でマス業界や広告、イベントなどを学んでいる学生にとっては、発表内容を聴講できただけでなく、実際にイベントの運営に関わることができ、有益な機会となったようだ。